

平成 2 8 年度第 1 6 回定例会

八王子市教育委員会議事録（公開）

日	時	平成 2 9 年 1 月 2 5 日（水）	午前 9 時
場	所	八王子市役所 議会棟 4 階	第 3 ・ 第 4 委員会室

第16回定例会議事日程

- 1 日 時 平成29年1月25日(水)午前9時
- 2 場 所 八王子市役所 議会棟4階 第3・第4委員会室
- 3 会議に付すべき事件
 - 第1 第53号議案 平成29年度学校運営協議会を設置する学校の指定について
 - 第2 第54号議案 平成28年度2月補正予算の調製依頼について
- 4 報告事項
 - ・平成29年度学校選択制の抽選実施後の状況について (教育支援課)
 - ・平成28年度青少年海外交流事業の実施結果について (生涯学習政策課)
 - ・平成29年成人式の実施結果について (生涯学習政策課)
 - ・平成28年度全国家庭教育支援研究協議会における実践交流会への出展について (生涯学習政策課)
 - ・IFSCボルダリングワールドカップ八王子2017の準備経過について (国際スポーツ大会推進室)

その他

出席者

教 育 長	安 間 英 潮
教育長職務代理者	星 山 麻 木
委 員	村 松 直 和
委 員	柴 田 彩 千 子

教育委員会事務局出席者

学 校 教 育 部 長	廣 瀬 勉
学校教育部指導担当部長	山 下 久 也
教 育 総 務 課 長	小 林 順 一
学 校 教 育 政 策 課 長	小 俣 勇 人
施 設 管 理 課 長	松 土 和 広

保 健 給 食 課 長	野 田 明 美
教 育 支 援 課 長	穴 井 由 美 子
指 導 課 長	中 村 東 洋 治
教 職 員 課 長	廣 瀬 和 宏
統 括 指 導 主 事	佐 藤 晴 美
統 括 指 導 主 事	斉 藤 郁 央
生涯学習スポーツ部長兼 国際スポーツ大会推進室	小 柳 悟
生涯学習政策課長	瀬 尾 和 子
スポーツ振興課長	坂 口 崇 文
スポーツ施設管理課長	佐 藤 晴 久
学 習 支 援 課 長	新 井 雅 人
文 化 財 課 長	中 正 由 紀
こ ども 科 学 館 長	叶 清
国際スポーツ大会推進室主幹	宮 木 高 一
図 書 館 部 長	伊 比 洋 司
中 央 図 書 館 長	中 村 照 雄
生涯学習センター図書館長	新 堀 信 晃
南 大 沢 図 書 館 長	村 田 浩 三
川 口 図 書 館 長	福 田 秀 之
指 導 課 指 導 主 事	上 野 和 広
教 育 総 務 課 主 査	堀 川 悟
教 育 支 援 課 主 査	山 田 光
生涯学習政策課主査	塩 澤 宏 幸
生涯学習政策課主査	串 田 欣 司
国際スポーツ大会推進室主査	伊 藤 雅 佳
教 育 総 務 課 主 事	廣 瀬 桃 子
教 育 総 務 課 主 事	小 山 ち は る
教 育 総 務 課 嘱 託 員	古 瀬 村 温 美

【午前9時00分開会】

安間教育長 大変お待たせいたしました。本日の出席は4名でありますので、本日の委員会は有効に成立いたしました。

これより、平成28年度第16回定例会を開会いたします。

本市では、地球温暖化対策、省資源対策の一環として、節電等に取り組んでおります。本定例会においても、照明の一部消灯を実施いたしておりますので、御理解いただきますよう、お願いいたします。

本日の議事録署名員の指名をいたします。本日の議事録署名員は、星山麻木委員を指名いたします。よろしくお願いいたします。

本日の議事でございますが、第54号議案については、いまだ意思形成過程のため、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第14条第7項及び第8項の規定により、非公開といたしたいと思いますが、御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

安間教育長 御異議ないものと認めます。

安間教育長 それでは、それ以外の日程について進行いたします。

日程第1、第53号議案 平成29年度学校運営協議会を設置する学校の指定についてを議題に供します。

本案について、教育総務課から説明願います。

小林教育総務課長 それでは、第53号議案 平成29年度学校運営協議会を設置する学校の指定について御説明申し上げます。堀川主査から御説明申し上げます。

堀川教育総務課主査 それでは説明いたします。本件は、八王子市立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則第3条の規定に基づき、平成29年4月1日から平成33年3月31日までの4年間にわたり、学校運営協議会を設置する学校として指定するものでございます。

本市では、これまで全校一斉の指定をせず、校長の意識、学校内の体制、地域の機運などが高まった学校の校長から手を挙げてもらい、一步一步着実に指定してきました。しかし今年度、本市では、既に半数の学校が地域運営学校へ移行し、学校運営協議会を設置した学校では、地域との連携、協働の取組を行い成果を上げてい

ることから、早期に全ての学校が地域運営学校に移行することが求められております。

こうしたことから、今年度当初の教育政策連絡会における校長への訓示や、教育長の学校訪問時等、さまざまな場面で教育長より校長に対し、地域運営学校への移行を促したところ、来年度は32校の申請がありました。それら32校の新規指定校については、学校長からの申請をもとに、学校教育部管理職で構成する審査会によるヒアリングを行い、学校運営協議会設置の必要性や、協議会設置による効果、地域・保護者等の動向等について確認をしたところ、全校において効果があることが認められました。

平成29年度より、新たに学校運営協議会を設置する学校として、32校を選定いたしました。なお、第六小学校と第三中学校は、いずれも小・中学校として1校の学校運営協議会を設置いたしますので、32校31協議会となっております。

続きまして、再指定校についてでございますが、4年の指定期間満了に伴い再指定するもので、これまでの4年間の運営状況、そして今後の4年間に向けた展望についての確認を行い、活動内容等から再指定が適当であると判断したものでございます。

こちらは平成21年度指定、平成25年度再指定を経て三度目の指定となる6校と、平成25年度指定から二度目の指定が6校、あわせて12校でございます。

以上の学校が指定されますと、平成29年度の実施校は88校84協議会となります。

最後に今後の予定でございますが、3月から4月にかけて新規委員に対して説明会を6回程度実施し、新規校に対しては不安のないスタートとなるよう、サポートしてまいります。

説明については以上でございます。

安間教育長　　ただいま、教育総務課からの説明は終わりました。

本件について御質疑はございませんか。

星山委員　　八王子のような学校数の多い市で、ここまで学校運営協議会が広がり充実してきたことは、市としても大変喜ばしいことだと思いますし、皆様のいろいろな御努力が実ったということにもなるかなと思うのですが、32校もの新しい学校が

指定されるということに伴いまして、考えていかなければいけない点もあるかなというふうに御察しします。

1つは、今までやってきた、学校で上手くいっていることを、いかにきちんと情報の共有化が図られるかということ、あるいはそれぞれの地域でのネットワークだけではなくて、これだけ多くの学校が参加している中で、さらにどういうふうに情報をきちんと共有化し、より良い学校運営協議会のあり方について検討できるかという、組織づくりのようなことも、市としてはきちんと考えていかないと、ある意味、東京都の中でも、これだけ大きい組織を抱えるところは前例がないかとも思いますし、その辺のところ、何かビジョンなりお考えなりがありましたら教えていただきたいなと思います。今のことは、ネットワークづくりということですね。

それから、もう1点、前も少し伺っているのですが、それぞれの学校に、その地域と学校の繋ぎ手となる、コーディネーター役の方がいらっしゃるのですが、そのあたりのことの育成や研修も考えていかなければいけないと感じているのですけれども、何かお考えなどありましたらお願いします。

安間教育長 2点ございました。

堀川教育総務課主査 1点目の情報共有についてでございますけれども、今年度から、まず新規向けに制度説明や委員としての心構えをまとめた学校運営協議会マニュアルを作成し配布する予定でございます。

また、これまでの各学校運営協議会の活動内容をまとめた地域運営学校の活動事例集を、現在、作成中ございまして、今年度中に配付する予定でございます。

また、校長向けに研修会を毎年8月に行っているのですけれども、委員を含めた全体研修会を、今年度は4回程度予定しており、市内先進校の活動事例の紹介や、外部講師を招きまして、制度説明や全国的な活動の紹介を図っていきたいと考えております。

2点目ですが、昨年度からなのですけれども、学校運営協議会だよりということで、年3回程度、教育委員会の活動も含めて、各学校運営協議会の活動や動き等をまとめた通信、情報誌というものも発行しております。以上です。

中村指導課長 コーディネーターの研修の件なのですけれども、28年度につきましては3回実施しました。その中で、講師をお呼びして、学校コーディネーターの活

動で必要なつながりの考え方についてとか、学校内における特別支援ということで、コーディネーター向けに3回研修会を開催いたしました。

以上です。

星山委員　　ありがとうございました。色々なところを拝見させていただいて気になっているのは、研修の内容の中でも、特に地域の方と学校が話し合いをして、どういうふうに熟議をしていくかという点です。一方的な研修ではなくて、ぜひお互い違う意見を出し合って、子どもたちのために、どのように合意形成をしていくかという、考え方や話し合いのプロセスのところを学び合えるような、そういう研修を企画していただけると、大変、有意義ではないかなというふうに思いますので、そのあたりお願いできたらと思います。

以上です。

安間教育長　　ありがとうございます。ほかにございませんか。

柴田委員　　学校運営協議会の委員さんというのは、非常勤特別職の地方公務員という肩書があります。そういう職をほぼボランティアでやっているという方々で、荷が重いというふうにおっしゃる方や、それから教員の人事権というようなところにも関わってきますので、やはり荷が重いという。子どもが好きでこういう活動はしたいけれども、荷が重いというような方がおられるという話をよく伺います。

そこで、安心して地域の志のある方が、こういった活動に積極的に関わっていただけるような取組と申しますか、コミュニティスクールを支える委員の人材確保といったことが課題というふうに感じております。

そこで、人材発掘といった面で、八王子は小中学校が108校もありますので、人材の奪い合いのような状況が生まれるかもしれませんので、そういったところの各学校へのサポートというところを、しっかりしていかなければならないと思います。そこに対しましての取組について、お伺いしたいと思います。

堀川教育総務課主査　　柴田委員がおっしゃったとおり、今年度の新規校で多く見られたところなのですけれども、やはり委員の選定において苦労している学校が結構ございました。特に、小学校、中学校というのは学区が一緒になりますので、地域の方を委員に設定しようとしたときに、もう既に同じ学区の小学校なり中学校で行っているというところで、やはり同じ地域なので、どうしても青少対も含めて、自治

会もかぶってしまうというところがありまして、そこはどうしても、全体的にやはり人材発掘とか、人材が不足しているというところがあります。この件に関しましては、なるべく小学校、中学校で兼務していただいて、もちろんそれは小・中連携にもつながっていきますし、もし多くの方が小学校、中学校を兼務するという状況であれば、それぞれの小学校、中学校の回数ですね。特にこちらは年間何回というものを設けておりませんので、そちらをそれぞれ少しずつ減らして、負担がないような形で、なるべく地域の力のある方を委員として選んで、回数、協議会の進行も含めて調整に入っているところでございます。

やはり、それぞれ、小・中の2校で1協議会という形になる学校も、恐らく出てくるかなというところもあります。これから委員の推薦は、各学校に依頼するところですけども、小・中がちょうど同じ学区のところは同じ委員で、例えば偶数月は小学校へ行って、奇数月は中学校へ行ってという形で、それぞれ行ったときにはそちらの話題をして、でも委員は同じですよという形をとって、やはり108校ありますので、どうしても人材の確保が厳しくなりますので、そこは教育委員会としてもフォローしていきたいと思っております。

柴田委員　今伺いました小中一貫の運営協議会の取組というのは、やはり中1ギャップというものに対する、各ほかのところの協議会の中で熟議されるということもありますし、委員の方の負担という意味からも、大切なのではないかと思いますので、ぜひ推し進めていただきたいというふうに思いますので、よろしく願いいたします。

安間教育長　ありがとうございます。ほか、御質問はございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

安間教育長　それでは、本案についての御意見をいただきたいと思えます。

村松委員　新規指定校は32校ですね、教育総務課の皆さんお疲れさまでした。いろいろと御苦労もあったと思えますけれども、この再指定校の12校12協議会、4年間の成果及び今後の展望なのですけれども、これは、4年間の成果も書かれていますけれども、これは聞き取りですか、それとも書類で提出されてここに載せているということですか。

堀川教育総務課主査　申請書で項目を立てまして、申請書で提出してもらっております。

す。

村松委員 成果については皆さん書かれているのですけれども、先ほども柴田委員もおっしゃっていましたように、人材の確保、または地域のコミュニティの問題など、運営していくにあたり色々な御苦労があったと思うのです。そういった御苦労の面についても、こちらの資料に書かれてあっていいのではないかと思うのですけれども、多分そこが、これから新しく指定された学校が、見たい、聞きたいというところだと思います。実際に提出された申請書では、苦労した面についても書かれているかどうかというのをお聞きしたいのですけれども。

堀川教育総務課主査 申し訳ございません。こちらの議案の資料には表示はされていないのですけれども、申請書には課題という形で提出はいただいております。やはり、人材確保というところが、多くの学校で上げられておりました。

村松委員 もちろん、資料には載せられないこともあると思います。ただ、こういうことにも苦労しているのですよとか、今日も、傍聴に来られている方もそうですけれども、市民にはこういうことをやっているのだということも周知をしていくのも大事なことなので、載せられるところを載せていただき、一生懸命つくっていただいているので、その部分についても加味していただきたいのかなというのが意見です。

小林教育総務課長 ありがとうございます。今回は再指定でございますので、このような書類の作り方をさせていただいております。

毎年、年度が終わりますと、1年間、この学運協でどういう活動をして、どういう効果が上がって、課題は何なのかという報告を、必ず教育委員会定例会で報告させていただいておりますので、そこでまとめて、今、指定している学運協の報告については、させていただく予定でございますので、よろしく申し上げます。

村松委員 ありがとうございます。

安間教育長 ほかに御意見ございませんか。

柴田委員 教師の多忙化ということが問題視されておりますけれども、こういった新しい取組が勤務校でスタートするとなると、教師の方々は不安を抱えているということも推測されます。資料の最後のページ、再指定校のNo. 7、第二小学校の成果の中で、学校運営協議会の設置により、教員に安心感が芽生え、自信をもって教

育活動に取り組むことができている、とあります。

新しい取り組みが増え、更に多忙化し不安感が増す状況になるのではなく、地域から学校教育への応援団が増えるというような、教師、教員に安心感が芽生えるというような事例を、今回、指定される地域の学校の教師の方々に伝えていただくなどの取組を行っていただけると、いいスタートが切れるのかなというふうに思いますので、ぜひ一言でも二言でも加えていただければと思っております。

それから2つ目なのですが、こういった学運協で熟議された内容を、実践化していく上での実働部隊としまして、従来の支援本部があったかと思うのです。これからは地域協働本部という支援本部のバージョンアップしたような形で、そういった仕組みを作っていく取組もあるかと思えますけれども、協働本部づくりというところもあわせて、着手をしていったほうが良いのではないかとというふうに考えておりますので、御検討をお願いいたします。

以上です。

星山委員 先ほど、御質問と言いながら、大分意見も入ってしまったのですけれども、私は、特別支援に関して専門と言いますか、そういう視点からも学校運営協議会に着目しています。日本はイギリス、英国をモデルにインクルーシブ教育、いわゆる地域の子どもたちをなるべくそこで受け入れ、包み込む形で支援していこうというデザインを取ってきたのですけれども、そのモデルとなっている国では、正規教員の約2倍がボランティアとして学校の中に入っているわけです。そのあたりのことはよく知られていないのではないかとと思うのですが。今の体制で、一人の先生が40人の子どもたちを見ていくという時代はもう難しい。そのデザイン自体、大変難しくなっていて、これからはやはり地域の力を借りて、地域で子どもたちを育てていくという、チーム学校という考え方が、本当に大切になってくると思うのです。

私は色々なところを見ているのですけれども、八王子ほど上手くいっているところはないと思ってしまして、こちらの市にいらっしゃるとこれが当たり前になってきましたので、分かりにくいかと思えますけれども、私は八王子のすごい強みだと思っているのです。声を掛けると、これだけの方たちが、ボランティアとして気持ち良く、子どもたちのために集まってきてくださるというのは、すばらしいなということがあります。

さらに、これを充実していくために、全校設置を目指していくような時代に入ってくると、やはり先ほども出ましたように、人材の確保と育成というのが非常に重要になると思うのです。例えば、やろうかやるまいか迷っている方に関しても、講座や研修を始めてもいいのではないかなというふうに考えています。委員になった方に対する研修ももちろん重要なのですが、人材を発掘して育成していくということに関しても、少し長期的にビジョンを持ってやっていったほうが、より八王子市の強みが生かせるのではないかなというふうに感じております。人材を育成し、確保することはすごく時間もかかりますし、ビジョンの中にそういう長期展望も持っていて、人を発掘し確保していただけたら、すごく良いのではないかなというふうに感じています。

以上です。

安間教育長 ありがとうございます。

村松委員 この学校運営協議会というのは、地域のお力をお借りするということが大前提ですけれども、逆に今の小学校のPTAの連合会は、半分近くPTA連合会に参加されていない、または入っていないという実情がございます。地域の方々も、PTAがあると小学校のことは安心して任せられたり、そこからまた自治会の色々な取組を理解してもらったり、参加してもらったりということがあるのですが、今、PTAが抜けてしまっていますので、地域の方々も色々な取組、また学校のお世話をし、かなり大変な御苦労があると思うのです。

ですから、逆にPTAがないところにどんどん学運協をつくっていただいて、そこから参加していただけると、地域の実情ですとか、取組にも、逆に保護者が参加できる。ですから、私はなるべく早くこの学運協を、もう全校に設置して取り組んでいったほうが、地域の方たちも助かると思うのです。これは地域の方々のお力だけを借りるのではなくて、逆に我々も地域の方々に力を貸してあげられるような、そういう学運協にしていきたいなという思いであります。地域の方々にも御理解していただくためにも、早目に設置を促すように取り組んでいただければなと思います。以上です。

安間教育長 ありがとうございます。

柴田委員 私は教育委員になる前、生涯学習の委員をさせていただいていたのですけ

れども、そこで生涯学習に熱心な市民の方が、日ごろの学習、学びの成果を適切に生かす場として、学校支援ボランティアという場があるのではないかと、たくさん議論してまいりました。

ですので、生涯学習の部分と連携をする形で、その学校支援本部、地域本部、協働本部であるとか、学運協の取組というものを構築していくような、何か八王子市ならではの形をつくっていくということも、望まれるのではないかと思います。

安間教育長 ありがとうございます。ほかに御意見等はございませんか。

先日、私は、今年、学運協を立ち上げた学校を訪問させていただいて、校長先生とお話をしたのです。この学校は1年目でありながら、結構大きなイベントを学運協の力でやったのですけれど、校長先生の自己評価が低いのです。

先生、立派に動き始めたのではないですかと言うのですけれど、いやまだまだねと。先生、もしかすると、最終形、理想形を見て今の状態を見ているから、まだまだ足りない、まだ全然だめだとおっしゃっているのではないですか、と言ったら、そのとおりです、と言うのです。1年目で完璧にできるわけがないのですね。

とにかく、この学校運営協議会をつくって地域運営学校になるというのは、日本の教育界の大きな転換だと思っているのですよ。要は、学校と建物が一体で、学校という組織があって、それで子どもたちの教育をずっとやっていたという、この伝統。だから、そこに通わせている子どもの親である、保護者会が必要だからPTAもという、そういう構造だったものを、今、大転換しようと思っている。

建物と学校というのは、私はイメージでいうと切り離して、今、考えているような気がするのです。建物があって、その中に学校教育という機能があるし、地域の運営をするという機能も入るしという。建物と機能が分離されているような、そんな大転換を図ろうというふうになっているのだらうと思うのです。

これは意識の問題ですから、先ほど、教員の多忙化の話もありましたけれど、かつてのような学校の建物を一体化すると、子どもたちの全生活を、その組織や建物で面倒を見なければいけない事態があったのだけれども、今はもう、とてもそんなことはできやしない。

では、学校というのが、そこでのどんな機能を、子どもたちに対して負うべきなのかというものが明確になるくらい、大転換だと思うのです。だからすごい時間が、

かかると思っているのですよ。

そういった意味では、まず立ち上げるという村松委員の発想は、私は正しいと思います。学運協を立ち上がったけれども、まだまだ十分ではないではないか。あそこは、まだ機能していないのではないかという、そういう評価をするのではなくて、我々自身が焦らずに、逆に我々が、つくられたことによって、こういうふうに変換していかなければいけないのですよというふうに、じっくりじっくり意識を変えていくという。何かそんな長い目で、我々も見していかなければいけないのだろうなと思います。

常々、4月、5月ぐらいから、私、言っていますけれど、学運協という定義が先にあるのではなくて、実際にはその地域に合った、学校の運営の仕方というものがどうしてもあるはずですから。それを時間をかけて見つけ出していただく、そんな援助をしていくということ、そのスタンスを持ちましょう。そして、それを常々、いろいろな場面で呼びかけていくようにいたしましょう、というのが私の意見です。

ほかに意見はございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

安間教育長　それではお諮りをいたします。

ただいま議題となっております第53号議案については、提案のとおり決定することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

安間教育長　御異議ないものと認めます。よって第53号議案については、そのように決定することにいたしました。

安間教育長　続いて、報告事項となります。教育支援課から報告願います。

穴井教育支援課長　それでは、教育支援課から、平成29年度学校選択制の抽選実施後の状況ということで、抽選を実施しました檜原中学校のその後の状況について、御報告をいたします。詳細については、担当の山田主査からさせていただきます。

山田教育支援課主査　それでは御説明いたします。平成29年度学校選択制の抽選実施校のうち、檜原中学校につきまして、抽選後の辞退等による入学希望者の変化を踏まえて行う措置の報告となります。

平成29年度学校選択制の抽選は、11月12日、土曜日、教育センターにおきまして、第五中学校、檜原中学校を実施いたしました。檜原中学校につきましては、抽選対象者が30人、そのうち当選者が21人、9人を補欠登録といたしました。抽選実施後に、当選者、補欠登録者の方から辞退がございました。その結果、資料の2にございますように、抽選結果(1)の表にもありますように、平成28年11月12日、抽選実施日時点での入学希望者は159人でありました。

その後の変更といたしまして、檜原中学校の学区域内の転入者があり、入学辞退者が10人おりました。その結果151人が入学希望者となっております。

当初、補欠登録者の繰り上げ当選につきましては、国と私立中校への進学者の状況を見ながら、2月21日に決定することとしておりましたが、抽選時の説明におきましても、部長等の挨拶の中でも、入学準備等の関係もあることから、状況を見ながら早期に繰り上げ当選を行うこととしておりました。

資料2の(2)、補欠登録者の繰り上げ当選通知についてにありますように、(1)のとおり、檜原中学校の定員、4学級160人に対し、入学希望者151人となったことから、入学希望者全員の入学可能と判断し、補欠登録者全員に繰り上げ当選通知を発布することを決定いたしました。

なお、第五中学校につきましても抽選を実施しております。繰り上げ当選等が決定した時点で、また改めまして御報告いたします。

報告は以上となります。

安間教育長 報告は終わりました。本件について御質疑はございませんか。

よろしゅうございますか。

村松委員 意見でよろしいですか。こちらのほうで、151人の入学希望者の方が入れたということですが、来年もこういう事態になるかもしれませんし、保護者、学校に、こういう抽選があるかもしれないことを、分かるように周知徹底していただければと思います。

実際、この学校選択ということをやっていないとすれば、こういう抽選という問題も起こらないわけですね。ということは、やるからには、やはり教育長がいつもおっしゃっているように、子どもたち一人ひとり寄り添う気持ちで、やはり抽選後、抽選前、一生懸命寄り添う気持ちで、子どもたち、保護者に周知しなければ、

学校選択をやっている意味がないと思いますので、その辺を踏まえて、檜原中、第五中もまだ決まっておられませんけれども、考えてやっていただければなと思います。以上です。

安間教育長　ほかにございませんか。私から2点ほど。

まず、この報告について、もう確定したのだから、なるべく早く伝えるという姿勢は、大変私はいいと思います。教育支援課のいい御判断だと思います。今後もそのような臨機応変な、市民のための方策を取ってください。

2点目は、入る、入らないのお答えだけなのですが、151人ですか。そうすると、4クラス、1クラス37人。だから、こういうような抽選があるような学校というのは、1学級が非常に子どもの数が多くなります。生徒数が大抵多いと色々なことが起こりますから、この後の学校の支援を指導担当部長お願いいたします。以上2点です。

よろしゅうございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

安間教育長　それでは、続きまして、生涯学習政策課から、3件報告を願います。

瀬尾生涯学習政策課長　それでは、平成28年度青少年海外交流事業の実施結果について、担当の串田主査から御説明をさせていただきます。

串田生涯学習政策課主査　それでは、御報告いたします。平成28年12月26日から29日の4日間で、海外友好交流都市である台湾高雄市にて、バトミントンを通じた交流を行いました。派遣団につきましては21名、事前報告では中学生16名でありましたが、事情により1名欠席となり15名となりました。

主な交流内容ですが、12月3日に結団式、事前研修を実施いたしました。そして12月26日に台湾の高雄市へ出発。27、28日と2日間で交流を実施いたしました。男女別にシングルス、ダブルスをトーナメント方式で実施をし、対戦相手につきましては、男子が英明中学校、女子が國昌中学校。2校とも台湾の中でも強豪校ということでございました。試合結果につきましては、女子ダブルスにおきまして、木山・早川ペアが2位となりました。そして28日には、高雄市、八王子市の混成ダブルスなどを実施し、選手たちは試合を通じて交流を深めておりました。

本事業の様子が、台湾の代表的な新聞、自由時報にも掲載されました。私、施設

見学を実施し、台湾の文化や歴史を学ぶことができました。この交流の様子につきましては、裏面に写真を掲載させていただいておりますので、ご覧いただければと思います。

最後に、パネル展につきましてですが、平成29年1月24日から2月2日午前中まで、八王子駅南口総合事務所、多目的スペースにて実施しておりますので、ぜひお立ち寄りいただければと思います。

説明は以上でございます。

安間教育長　　ただいま、報告は終わりました。本件について御質疑等はありませんか。

村松委員　　串田主査は、確か、昨年野球も台湾のほうに行かれたのでしょうか。

串田生涯学習政策課主査　　行きました。

村松委員　　そうですか。お疲れさまです。これ、団長は教育長だったのですか。

小柳生涯学習スポーツ部長兼国際スポーツ大会推進室長　　教育長は公務がありましたので、私が団長として企画しました。事務局としましては、私が団長、事務局長が生涯学習政策課長、主査の串田の3名です。

村松委員　　お疲れさまでした。年末ですよ。向こうの台湾高雄市の皆様が大変もてなしてくださって、子どもたちも生き生きと、また一生懸命活動してきたというふうに聞いておりますが、今回、高雄市を訪問したときに、高雄市の方々がどういふふうにもてなしていただいたとか、また、この試合は、男子・女子、または混合です。この試合の結果だとか、そういうことも、もろもろ教えていただきたいのですが。

串田生涯学習政策課主査　　現地に行きまして、非常に、歓迎をしていただきました。会場になりました國昌中学校の体育館で試合を行ったのですけれども、その体育館はとてすばらしく、バトミントンが6面取れるという、非常に大きな体育館でございました。また体育館には八王子の学校と比べ物にならないほどの大きさの舞台がございまして、そこに団長である部長、生涯学習政策課長等を座らせていただきまして、開会セレモニーというものを盛大に行っていただきました。

あちらから色々なプレゼントや、子どもたちに果物をいただくなど、そういったことで本当に歓迎をしていただいたというところでございます。

試合につきましては、先ほど申し上げました2校が強豪校ということでございまして、シングルスにつきましては、男子は1回戦で敗退してしまうという結果になりました。先ほど申し上げました女子のダブルスにつきましては、2位という結果。女子のシングルスにつきましても、お一人だけ3回戦まではいったのですけれども、入賞はできなかったという現状でございます。

混成ダブルスにつきましては、現地で私どもで組むのではなく、八王子の選手たちが、この選手とやりたいということを自主的に言っていただきまして、通訳を通じてダブルス、シングルスを行いました。また一度トーナメントで負けた選手をもう一度指名して対戦をするなど、そういったことを行っておりました。

以上でございます。

村松委員　ありがとうございます。この写真だけでも、本当に子どもたちが友好的な関係を結べる、またこの大会だけではなくて、今後また台湾の方々とスポーツ精神にのっかって、関係を続けてくれたらいいなという想いがあります。

本当に、これパネル展が24日から2日までであるというのですけれども、この自由時報という、向こうの新聞とかも掲載されているのも、こういうのも展示されているのですか。

串田生涯学習政策課主査　すみません、掲示はしていません。新聞に掲載したというところなのですけれども、写真等ではなく、この小さい部分での掲載というところで、今回は掲載はしてありません。

村松委員　ありがとうございました。

安間教育長　ほかに。

星山委員　海外との交流事業ということなので、バトミントンを通してということではあると思うのですけれども、実際に参加なさった八王子の中学生が台湾に行ってみて、どんな交流を深めたという感想などありましたら、少し聞きたいと思うのですが。

串田生涯学習政策課主査　実際に交流のときは私も見ていたのですけれども、特に女子8名につきましては、非常に活発的に交流をしております、男子は少し照れくさいのでしょうか。なかなか交流ができず、最後のほうでは男子と一緒に交流をしていたところです。

まずは名前を聞きたいということで、名前をお互いに自己紹介をしながら、身ぶり手ぶりも含めながら、事前研修では、一応中国語も勉強しましたので、それも使いながら話をしました。ただ細かい話はなかなか難しいので、通訳もずっと常駐しておりましたので、通訳を通してバトミントンの話ですとか、台湾ってどうなのかというような話をして終わりました。

以上です。

星山委員 ありがとうございます。また、交流事業等、すごくこれから大事になると思うのですが、もちろん試合に勝った、負けたも大事かもしれませんが、やはりこの事業の目的とといいますか、違う文化の、違う国の同い年の子どもたちと、スポーツを通じてこんなに交流できたり、言葉はわからなくても、こんなに楽しめたり、友達になれたりというあたりのことを、ぜひ皆さんに伝えていただけたらありがたいなというふうに思います。

以上です。

安間教育長 ありがとうございます。ほかにございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

安間教育長 それでは、ないようでありますので、報告として承らせていただきます。

続けて、2点目、報告をお願いいたします。

瀬尾生涯学習政策課長 続きまして、平成29年成人式の実施結果について、報告いたします。担当から説明をいたします。

串田生涯学習政策課主査 それでは報告いたします。平成29年1月9日成人の日に、オリンパスホール八王子にて成人式を実施いたしました。第1回が10時から11時、第2回が12時30分から13時30分で行いました。

内容についてですが、式典の部としまして、国歌・市歌斉唱を、中央大学音楽研究会混声合唱団が行いました。新成人の主張につきましては、第1回が4名、第2回が4名、計8名が新成人として夢や熱き思いを主張していただきました。

アトラクションの部では、成人式実行委員会の作成した映像作品を上映いたしました。もう1つのアトラクションが、東京2020オリンピック・パラリンピックフラッグツアーセレモニーを実施いたしました。

参加者数ですが、計3,516名。過去5年間の中でも最大の参加者数となりました。

した。

裏面をご覧ください。今回の状況となります。

成人式実行委員が、昨年7月から半年間、計8回の実行委員会を開催しまして、プログラムやアトラクションの企画、当日の司会進行など、運営を担っていただきました。

成人式当日は、職員、ボランティア等、総勢110名が運営に従事をしていただきました。ボランティアでは八王子高等学校ボランティア部が受付業務を担当していただきました。そして、市内小学校の2分の1成人式実施校のうち、12校の4年生が新成人を祝福した装飾作品を作成し、会場に掲示をさせていただきました。近日中に、実行委員会からお礼のメッセージを、12校の小学校に送る予定となっております。

参加者数につきまして、第1回が1,764名、第2回が1,752名と、ほぼ均等の出席をいただきました。これは前回から実施しております地区割りの効果が出ていると考えております。地区割りの表は、参考として下の表となっております。

最後にパネル展についてですが、平成29年1月24日から2月2日午前中まで、八王子駅南口総合事務所多目的スペースにて実施しておりますので、ぜひお立ち寄りいただければと思います。説明は以上でございます。

安間教育長 報告は終わりました。本件について御質疑はございませんか。

柴田委員 多くの参加者を得た成人式で、大変盛大に新成人の門出を皆さんで祝うような素晴らしい会だったと思います。本当に大きな会でしたので大変だったと思います。お疲れさまでした。

この成人式ですが、2分の1成人式ということで、10歳の子どもたちの希望に満ちた作品が装飾されていたり、それから高校生のボランティア、また市民のボランティアというような方々が多く見られたことが、何よりも市民全体で作り上げた成人式という、そういう雰囲気を醸し出していたと思います。

それで1つ、あまり関係ない話かもしれませんが、少し気になったことがあったのですが、振袖を着ていた女の子たちが、首周りにショールのようなものをかけているのですが、そういうものをかけて着席していたというような光景も少し見られましたので、やはりああいうものは外して、膝の上なりに置くなりしていただ

きたいなというふうに、ちょっとおぼさんの発想かもしれませんが、そのように感じました。

そういうことを指摘する方がどなたか、市民の方でいらっしゃれば良かったかなというふうに思いました。

以上です。

安間教育長 ありがとうございます。知らないのではないですかね。どこかでちゃんとそういうのも、せっかくそういう格好をするのならば、それを着たときの礼儀というのは、どこかで教えられるといいですね。ほかに何かございましょうか。

星山委員 私も毎年参加させていただいて、毎年毎年いろいろと趣向が違っていて、とてもすばらしいなと思いました。

御質問なのですが、成人式の実行委員会方式はとてもすばらしいと思いますし、成人の主張という企画もすばらしいと思うのですが、すごく影響力がある役だなと一方で思っています。また、社会教育的に考えてといたらあれですけど、もちろんお祝いの会ではあるのですが、成人になる八王子の7,000人以上の方たちが一斉に見る映像であるとか、一斉に聞くスピーチであるということを見ると、練習の仕方、それから編集の仕方など、いろいろと御苦労があったのではないかなと思うのですが、映像も一応実行委員会の方がというふうになっていますけれど、どれぐらい準備とか、あるいはほかのオブザーバー的な方たちの、スーパーバイスと言いますか、そういうことがあったのかなというあたりを知りたいと思いました。もし御存じでしたらお願いします。

串田生涯学習政策課主査 実行委員会につきましては7月から8回、当日を入れずに8回なので、実際には前日の準備ですとかリハーサルも行っているのですが、当日も合わせまして10回ということで行いました。特に映像作品につきましては、非常に苦労をしまして、実行委員会の思いもありますし、ただ、合っているのかどうかという確認も、私どものほうで行いながら作品をつくっていきました。実際に、作品にかかった時間は2カ月ほどです。

さらに本当に上映ができるのかという心配もありまして、事前に上映をしていたりですとか、画面の比率がおかしかったりですとか、文字が途切れてしまったり、そういったいろいろなことがありまして、2カ月ほどかかってしまったとい

うところなのですけれども。

今回の実行委員会につきましては、公募ということで毎年行っているのですが、本当に八王子の良さをアピールしたいという思いが強かった7名でございました。なので、映像作品の中でも100周年という部分で八王子の良さというものを出したというところで、私どもの意見ではなく成人式実行委員会が意見として出させていただきましたので、そちらを今回、採用させていただいた形になっております。

星山委員 わかりました。ありがとうございます。

村松委員 意見でよろしいですか。生涯学習政策課の皆さん、また市教員の皆さん、本当に成人式お疲れさまでした。大変ビックイベントですので、何事もなく終わって本当に良かったです。今回、こちらの学区域も少し見直して、半々でこれだけ割れるというのも本当に素晴らしいなと思いますし、何よりこのボランティア総勢110名の皆さん、また高校生の皆さんとか小学校の皆さんが、一生懸命手伝ってくださったので、無事で終わって良かったなというふうに思っています。

今回、前半の式典のときに、市長の御挨拶のときに、若干2階がざわついたかなと思うぐらいで、あとは去年よりも本当に静かで、良かったなと思うのですけれども。来年もそうなのですけれども、さっき柴田委員もおっしゃっていましたが、私もこうやって着物を見ていてわかるのですけれども、男性がこの下の中の、この白衣というのですけれども、白衣をね、逆にこうやって折っているのです。女性の衣料物で着ているのです。見ればすぐわかるのですけれども、ああいうのも、誰も言ってくれないのだろうなと思って。ファーというのですかあれは。あれもバサバサするものだから、上から降り注いでくるのですよ。ああいうのは下に置いたりとか、そういったことも配る資料などに書いておかないと、若い子たちはわからないのかなと思います。

そういうことも、本当は親が教えなければいけないのですけれども、多分、保護者もこういう着方とか、基本知らないと思うので、本当にそこも家庭教育の一環として、これからは本当に何か、そういうプログラミングの中に、そういうことも書いておくのも手なのではないかなというふうに思います。

本当にいい成人式で、オリンピック・パラリンピックのフラッグツアーセレモニーも無事に終わりました。最前列のほうで旗を持たせていた人いますよね、こうや

って。前半式では協力をしてくれなかったと思うのですが、あそこの人たちだけ持たせていたというのは、あれは何か意味があるのですか。

串田生涯学習政策課主査 フラッグツアーセレモニーにつきましては、東京都が主催をしております、実は旗が200ほどしかないというところで、1回目100、2回目100ということで、前に座っている方にお渡ししたという経緯があります。

村松委員 では、そのまま旗を振った後は、それをどうぞお持ち帰りくださいと言って渡してしまったのですね。そういうところも東京都も言ってくれば、200を使いまわしてもっと盛大にできたのですけれども。来年、フラッグセレモニーツアーはないのですけれども、またいい企画を練っていただいて、ぜひ来年につなげていただければと思います。

以上です。

安間教育長 ありがとうございます。私も含めて、大人は子どもに対しての注文がどんどん多くなっていきますけれど。ただ私自身は、この成人式に入る会場の前のところで、いかにもやんちゃそうな男の子たちがたむろしていて、おいどうするんだよ。一生に一度だから、中に入って市長の話でも聞こうぜと。私ね、もう心の中で拍手をしたくなって。素直でいい子たちで。

4,500人のうち3,500人も来てくれるでしょう。何かどこかで、君たち素直だから、将来、安心したよって、何か一言ぐらい言ってあげたいなという気持ちを、私個人は持っています。

このことと言うと色々ありますけれども。担当の方お疲れさまでございました。

それでは報告として承らせていただきます。

生涯学習政策課から3点目、最後の御報告をお願いいたします。

瀬尾生涯学習政策課長 それでは、続きまして、平成28年度全国家庭教育支援研究協議会における実践交流会への出展について御報告いたします。

担当から説明をいたします。

塩澤生涯学習政策課主査 それでは、説明いたします。来る1月30日、月曜日から31日、火曜日にかけて、文部科学省主催による平成28年度全国家庭教育支援研究協議会が開催されます。この催しは、社会全体の協働による家庭教育支援の活性化を図るため、行政関係者や市民団体を初めとする関係者が一堂に会し、これまで

の研究成果事例や、地域、企業等が実践する効果的な取組事例などを活用した研究協議を行うことで、家庭教育支援の全国的な普及を図ることを目的としています。

今年度は、地域の特性を生かし、連携した家庭教育支援のあり方をテーマに、家庭教育支援の推進につながる取組とは何かについて、その課題や取組の方向性について検討します。

詳細につきましては、別紙資料のとおりですが、パネルディスカッションや事例報告のほか、30日には全国各地で活動している、家庭教育支援チームによる活動報告や、情報交換を行う実践交流会が開催されます。実践交流会は、全国各地の家庭教育支援チーム計13団体が出展し、日ごろの活動内容のパネル展示や資料の配布などで参加者に紹介することで、そこでの意見交換や情報共有を通じて、家庭教育支援チームの普及を図ることを目的としております。

こうした中、本市からは昨年度に引き続き、家庭教育支援事業を市と共催している市民団体、「星とおひさまF i k aキャラバン」が出店します。なお同団体は、今年度から文部科学省家庭教育支援チームに認定されています。

出展内容につきましては、市と協働による家庭教育支援講座の紹介のほか、支援活動にかかるパネル展示やチラシの配布を行います。なお、今回の掲示物につきましては別紙の3枚目のとおりですが、こちらをA1判に印刷したものを掲示します。

会場は、渋谷区にあります国立オリンピック記念青少年総合センターとなりますが、お時間がありましたら、ぜひお立ち寄りいただきますよう、よろしく願いいたします。なお、実践交流会は30日の17時45分から18時45分までとなっております。説明は以上でございます。

安間教育長 報告は終わりました。

質問なのですが、これは「星とおひさまF i k aキャラバン」の展示ですか。これは1日目の17時45分から18時45分、実践交流会の中であるという、そういうことですか。

塩澤生涯学習政策課主査 展示物についてですが、30日の17時45分から18時45分の間につきましては、交流会の中で、団体ごとに自分たちの活動を紹介する時間というのを設けております。そこで展示とあわせまして、自己紹介を行うということになります。31日も引き続きまして、レイアウトは若干変更がございます

が、掲示物は引き続き掲載されるという形になっております。

以上でございます。

安間教育長 ありがとうございます。何か御質疑はございますか。補足でも結構です。

星山委員 私も、昨年初めて参加させていただきまして、想像していたものよりずっと大規模で、全国から団体が参加していらっしゃるの、大変感動しました。

八王子からも生涯学習政策課の方たちを初め、皆さんに応援に駆けつけていただいている、八王子のパネルの前は、大変、人が集まっています好評でした。去年もすばらしかったですけれど、今年もうまくいくといいなというふうに思います。

私も、昨年初めて参加して驚いたのですけれど、全国からいろいろな市町村の取組が紹介されておりまして、現在抱えている課題はどこも同じなのだなということと、そのことに関して非常に先駆的に取り組んでいらっしゃる、さまざまな実践が聞けまして、私は大変勉強になりました。

八王子の評価も非常に高かったわけですけれども、外部評価も非常に高いけれども、これから内部でどうやって、特に子育てしている親を支えるというところ、今、大変、課題かなと思いますので、ぜひいろいろなところの、先駆的な実践を学びながら、取り込めていけたらいいのではないかなと。私自身の感想になってしまいましたが、思いました。

印象的だったのは、学校に入る前の家庭訪問をしていらっしゃるところがあるということ、それから、家庭教育というのを、新1年生の保護者に対し、きちんと社会教育としてプログラムを持っていらっしゃる市もありますし、皆さんやはり、悩みは一緒かなと思いますが、それぞれ一生懸命取り組んでいらっしゃるのだなということが実感できまして、ぜひこういう情報共有の場で、良いものを取り込んでいけたら、さらに充実するのではないかなというふうに感じていますので、今年も私も見学させていただけたらなと思っておりますので、ぜひ一緒に勉強させていただけたらと思います。よろしく願います。

安間教育長 ほかにございますか。よろしゅうございますか。

この家庭教育支援については、先ほども着つけの話もありましたけれども、本市としても大きな課題であるというふうなずっと議題になっていますから、それ以外のことで何か、我々でアイデアを出して、何か進めてまいりましょう。

それでは、報告として承っていただきます。

続きまして、国際スポーツ大会推進室から報告をお願いします。

宮木国際スポーツ大会推進室主幹　それでは、I F S C ボルダリングワールドカップ
八王子2017の準備経過について、伊藤主査から御報告いたします。

伊藤国際スポーツ大会推進室主査　それでは、私から御報告いたします。まず、平成
28年11月1日付で、国際スポーツ大会推進室の組織が発足してから、現在まで
の経過について御報告いたします。

平成28年11月22日に、市長と日本山岳協会が合同記者会見を開き、ボルダ
リングのワールドカップが八王子で開催されることを発表いたしました。順番は前
後しますが、平成28年11月2日、ワールドカップ開催の実行役となる関係者が
集まり、ワールドカップ実行委員会準備会を開催いたしました。これを皮切りに準
備が始まり、この準備委員会に参加したメンバーが、実行委員会の構成メンバーと
なっております。

平成28年12月20日に、第1回ワールドカップ実行委員会を開催いたしまし
た。メンバーにつきましては、資料で御確認をお願いいたします。

次に、平成28年12月7日でございますが、市議会文教経済委員会で補正予算
が審議され、平成28年12月16日に、市議会本会議で可決・成立いたしております。

一方で、国際スポーツ大会推進室を設置しました目的の1つであります、国際大
会のノウハウを学ぶということにつきましては、庁内各部署との連携を図りながら
進めるため、平成28年11月21日に、レガシープラン推進会議という会議を開
催いたしております。

続きまして、今後の予定でございますが、今週末の平成29年1月28日、29
日に、ボルダリングの国内の最大の大会であります、ジャパンカップが代々木第2
体育館で開催されます。この大会を、室長を初めとした担当職員で視察に行ってま
いります。

月がかわりまして、平成29年2月14日に、第2回ワールドカップ実行委員会
を開催する予定となっております。さらにワールドカップの開催を周知するための、
ポスターや横断幕などの掲示物の制作・準備、選手、役員の方々のおもてなしとし

て記念品の選定、協力ボランティアの手配などを進めてまいりました。

資料の裏面につきましては、参考にボルダリング競技と今回のワールドカップの概要を記載しておりますので、後ほどご覧ください。

以上で報告を終わります。

安間教育長 報告は終わりました。本件について御質疑はございませんか。

村松委員 この1月12日の八王子のエスフォルタアリーナの施設の確認のため、現地確認を実施と書いてありますけれども、山岳協会さんとか八王子市は、どういう感触だったのでしょうか。ここをどうしようとか、何かいろいろと設置をするだとか、色々と意見が出たと思うのですけれども、協議事項が出てきたかなというのを1点。

あと、これからまた実行委員会とかが開催されていく中で、協議がされると思うのですけれども、例えばイベントですとか、市内の子どもたちにそういうアピールをするとか、そういったことは現地で、そういうのをされるのかどうかというのは、話題には出ているのですか。その2点を教えてください。

伊藤国際スポーツ大会推進室主査 まず1点目の1月12日の現地の確認の状況でございますが、会場はエスフォルタアリーナ八王子のメインアリーナになります。この周りにあります諸室と言われる各部屋の使い方につきまして、日本山岳協会また、山岳協会のアドバイザーとして博報堂D Yという広告宣伝会社が入っておりますが、こちらの会社がスポンサーの控室などの使い方について一回り見てまいりました。日本山岳協会並びに博報堂D Yどちらの関係者からも、エスフォルタアリーナの施設は大変すばらしいという御好評をいただきまして、今大会についても、部屋が足りないですとか設備が足りないということはないので、十分開催ができるだろうと。また、今回は、スポーツクライミングの中のボルダリングという種目のみの開催でございますが、エスフォルタアリーナ八王子であれば、そのほかのリード、スピードといった、ほかの種目も開催できるのではないかと御意見をいただきました。

また、今後のアピール方法ですが、掲示物の作成の準備をしていますということをお先ほど御報告申し上げましたけれども、都内各地の体育館などの公共施設、またスポーツクライミングを行っている民間ジムなどにもポスターなどを配布し、周知をしたいと考えてございます。

資料の中にございます、実行委員メンバーの中には観光業界のメンバーも入っておりますので、そういったところの力をかりて、より広く周知できないか、今、検討をしているところでございます。

また、子どもに対してなのですが、現在まだ検討中ではありますが、大会の日に、できれば体験のできるような、ボルダリングの壁を会場に設置できないかということを検討してございます。以上でございます。

村松委員 以前お聞きしていたときには、何かスピードとか3種類あって、高さが足りないとか、いろいろなことがあって、高さもクリアされているのですかね。

伊藤国際スポーツ大会推進室課長補佐 実際に競技の主催をします日本山岳協会の方々が見まして、また当日はエスフォルタアリーナの運営を担当しております職員も一緒に同行いたします。その結果、高さについても十分足りるということで、リードやスピードもできなくはないというお話をいただきました。

村松委員 ありがとうございます。

安間教育長 ほかにございましょうか。よろしゅうございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

安間教育長 それでは、報告として承らせていただきます。

安間教育長 これで、公開の審議は終わりますが、委員の方から何かございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

安間教育長 ないようであります。それでは、私から1点お知らせがございます。次回の教育委員会定例会は、普段、仕事や用事で平日の傍聴が難しいという方にも傍聴していただく機会とするため、普段とは異なる曜日、時間、会場で開催をいたしたいと思っております。日時は、2月11日、土曜日の午後2時から。会場は八王子市教育センター3階の大会議室となります。日時と場所をお間違えのないよう、御留意ください。

それでは、ここで暫時休憩にいたします。

なお、休憩後は非公開となりますので、傍聴の方は退席をお願いいたします。再開は10時25分です。よろしゅうございますか。

【午前10時15分休憩】